

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300450
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム 太陽の家
訪問調査日	平成 21 年 9 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 11 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670300450		
法人名	株式会社 ケイシン		
事業所名	グループホーム 太陽の家		
所在地	鹿児島県鹿屋市今坂町12405-25 (電 話) 0994-44-6577		
評価機関名	特定非営利活動法人		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年9月24日	評価確定日	平成21年11月4日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算11.9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造一部鉄筋 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	9,000円(水道光熱費)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2	名	要介護2	3	名
要介護3	6	名	要介護4	5	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢	平均 86.8 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大隈鹿屋病院 ・ 辻畑歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、人の絆やつながりが希薄になってきている時代だからこそ絆を大切にしていきたいという思いで、高齢者福祉・幼児教育・園芸福祉に力を注いでいる。保育園の体育館を改装し開設されたホームでは、今でも入園、卒園式、お遊戯会などに、ホールの舞台を使用しているため利用者も一緒に参加している。併設の児童クラブの子供達も「ただいま」と帰って来るので、利用者も「お帰り」の笑顔で応える。日常的な子供達とのふれあいに利用者は「元気をもらうたあ」と目を細める、老・幼一体の光景である。地域との交流も広がり、鹿屋市を人の繋がりで元気にしたいと発信する拠点となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題については職員会議で報告し改善に取り組んでいる。職員を育てる取り組みについては、職員の経験年数がまばらであるため職員から研修内容の希望を聞き、外部講師を招いて勉強会を行なっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員集まり責任者を中心に、2日かけて項目ごとに意見を出しあいまとめたユニットと、2週間前からミーティング時に日勤帯の職員で去年の自己評価を検討しながら、今年はどうだったか意見を聞いてまとめるなど、ユニットごとに特色のある自己評価となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的開催され、利用者の状況、活動内容などの報告後、意見交換が行なわれている。家で認知症介護をしている方は、グループホームに入るまでが悩むので相談する所があったらという意見に、包括支援センターの職員と協働して相談窓口となったり、認知症サポーター養成講座の開催にあたり、家族、町内会、消防署などヘチランを配り参加を要請するなど、認知症の理解を求めながらホームを知ってもらうように働きかけている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見・苦情相談の窓口担当に民生委員を立てている他、ホームの玄関には気づき箱を設置している。家族会も年2回あり、家族だけで話し合う場を設けて出された意見や疑問などには管理者が回答している。面会時などに出された要望については、職員で話し合い個別の連絡帳に記載しサービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会主催の秋祭り、運動会、清掃活動などに参加している他、今年は地域の方を招いて保育園の園庭で夏祭りを行なうなど新しい試みも行なっている。また、近隣の方とは、野菜作りを指導してもらったり、バイオリンを弾きに來てもらったりと日頃から交流をしている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした共同生活住居として、地域交流を計画的に取り入れ支援します」という、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている法人の理念を軸にして、各ユニットごと毎年目標を掲げ利用者のサービスの向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとの目標は、職員が日々確認しやすいホールやカウンター前に貼られている。利用者に対する言葉遣いに配慮しながら、利用者のできることを共に探し、共に喜び合えるように目標を意識し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会主催の秋祭り、運動会、清掃活動等に参加している。初めての試みとして保育園の園庭で地域の方も招いて夏祭りを行ったり、中学生の職場体験の受け入れも行なっている。近隣の方とは散歩などで顔馴染みになっており、野菜を頂いたり、パイオリンを聴かせに来てくれたりと交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善課題については、職員と話し合い職員の意見を取り入れながら改善している。自己評価は、各ユニットごと責任者を中心に職員全員で取り組んでおり、ケアに対する振り返り、原点に戻る良い機会になっていると捉えている。	○	昨年度の改善課題の話し合いや見直しも行われているが記録として残されていないので、自己評価を含め取り組みの過程を記録されることを希望します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、利用者の状況、活動内容の報告後に意見交換を行なっている。家で認知症介護をしている方が相談する所があったら助かるのではという意見に、包括支援センターの職員と協働し相談窓口になるなど意見をサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホーム 太陽の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の行事案内や便りを市の担当者に届け、日頃の取り組みの報告をしながら情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各ユニット毎に便りを作成し、行事案内、利用者の日頃の様子を写真入りで紹介、職員の異動の報告などを記載し、遠方の家族には写真も添えて送付している。他の家族には、面会時に健康状態を報告しながら便りを渡し、お小遣い帳の確認もしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催されている。家族だけで話し合う時間を設けているため、家族の意見や不安に思っていることの把握ができています。出された内容については、その場で回答したり、職員と話し合ってから書面で回答するなど細やかな対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は法人内で新しいユニットが開設され、新人教育のため異動が多かったが今後落ち着く予定である。職員採用は経験者を優先し、職員間のコミュニケーションを心がけている。新しい職員には、事前研修を行い利用者との対話を多くすることを指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の改善課題であったため職員と話し合い、職員の希望する研修項目を年間計画の中に組み入れ、協力病院から講師を招いて研修を行うなど改善に取り組んでいる。外部研修についても職員の希望を優先し、研修後はミーティングで伝達講習を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅グループホーム連絡協議会に加入して研修等に参加している。包括支援センター管轄の事業所と3ヶ月に1度勉強会を開き、職員同士の交流を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があれば、自宅を訪問し馴染みの関係作りを行うと共に本人、家族が見学することで雰囲気を感してもらい、納得してから入居してもらうようにしている。入居後は、声かけを多くし利用者同士の交流を行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対し人生の先輩として言葉遣いに心配りしながら、さまざまな知恵を学ぶ機会をもっている。地域の習わしや郷土料理、梅干・らっきょう作りなどを教えてもらい、野菜の植え付けを一緒に行いながら支え合う関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人、家族の思いなどの情報はフェイスシートで共有し、入居後家族の面会時などに把握した場合は追加記入している。職員が日々の会話や行動で感じた気づきは、個人の経過記録に記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットごとにミーティングを行い職員が意見を出し合っている。サービス担当者会議に家族が出席できない場合には、電話や面会時などに家族の思いを確認している。介護計画は、本人、家族、必要な関係者の意見を取り入れたものになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎日サービス内容の確認と評価をチェックしモニタリングの機会とし、特に変化がない場合でも3ヶ月ごとの見直しを行なっている。緊急時や退院後には、家族と話し合い新たな計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、看護師である管理者が健康管理を行なっている他、予防接種時などの往診、歯科医師の往診などにも対応している。また、家族の要望があれば病院受診に付き添い、外泊などの支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。病院受診に職員や家族が付き添った場合には、必要な情報を提供し共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成し、入居時に家族に説明し同意書も得ている。看取り希望の家族には、事業所として対応できるケアについて説明し家族の協力をお願いすると共に、職員の不安解消のための勉強会を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務については入職時に誓約書を交わしている。プライバシーを損ねないコミュニケーションのとり方などの勉強会を実施すると共に、日常で気づいた声かけ等についてその場で指導するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、起床、就寝時間、レクレーションへの参加等本人のペースを大切にしている。昔から行っていた神社にお参りに連れて行ったり、好物を買いに行ったりと本人の希望にそって支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に合わせ、野菜の下ごしらえ、食器洗い、トレー拭き、片付け、台拭き等を行いながら、職員と一緒にテーブルを囲み、菜園で作った野菜の話題を提供しつつ楽しい食事になるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回だが、入浴日でない日に入ったり、外出して汗をかいたのでシャワー浴をするなど、それぞれの状態や要望に合わせて柔軟な支援を行っている。時々温泉の家族風呂に出かけたり、入浴剤を入れたり楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、洗濯物たたみ、モップがけ、金魚の餌やり、カレンダーチェック、お茶パック詰め、新聞とりなどを役割とし、踊りリハビリ、音楽療法(ピアノ、和太鼓)3B体操などを楽しんでいる。特に先生が着物で来られることを楽しみにしている他、季節ごとの花見やぶどう、みかん狩りなどの行事で気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、車椅子の利用者も保育園の園庭や近所まで行っている。園庭と事業所には垣根がないので、常に行き来でき利用者が中庭に出て雑草を抜いたり、日光浴やお茶をしている。また、買い物ツアーを企画するなど、外出する機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーが付いているがスイッチは切っている。鍵はかけておらず保育園のスタッフも含めて、見守りの体制が出来ている。外出傾向にある方には、職員が声かけし一緒について行くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回の昼間、夜間想定訓練、職員連絡網から到着時間測定、防火訓練の他、毎月事業所で避難誘導の自主訓練を行っている。保育園が地域の避難場所に指定されていることもあり、訓練には地域住民の参加も得られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1200Kcal、水分は食事以外で1500ccを目標にしている。食事・水分・排泄のチェックを時間を追って行っており、月1回の体重測定などで状態を観察している。栄養のバランスは職員の勉強会で講師の栄養士から指導を受け、食事形態も、ミキサーや刻み食など状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	A棟は体育館を改装しているため天井が高く明るい光が入る。中庭に面した大きな窓からは保育園児の姿も見え、柿やもみじなど季節の木々が植えられている。B棟も吹き抜けで明るく、浴室は岩風呂で箱庭が見え情緒があり、対面式のキッチンからはリビングの様子がわかる。両棟ともテレビの前にソファを配置し、壁には楽しかった行事の写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台とベット、タンスが備え付けとなっている。利用者は使い慣れた布団、パイプハンガー、時計、仏壇、観葉植物など好みの物を持ち込んでいる。他、コルクボードには、家族や行事での写真など思い出のものを飾りその人らしい居室となっている。		